

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和2年5月31日現在

機関番号：14602
研究種目：奨励研究
研究期間：2019
課題番号：19H00131
研究課題名：幼小一貫した資質・能力を育成する「育ちの履歴カリキュラム」に関わる研究

研究代表者
松田 登紀 (MATSUDA, Toki)
奈良女子大学附属幼稚園・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：470,000 円

研究成果の概要：

本研究では、幼小一貫した実践から「育成したい資質・能力」を描き出す3歳～5歳の「育ちの履歴カリキュラム」を編成するにあたり、教師の意図や願いが視覚的に読み取れるようデザイン開発を行うことを目的とした。

カリキュラムをデザインする過程において、以下の成果が見られた。(1) 実践者が無自覚であった資質・能力の観点を記録写真に再発見することになり、実践でより資質・能力を意識するきっかけとなる、(2) 実践写真を基に他者と対話することにより、自らの保育観を自覚することにつながる、(3) 写真は公開した時から見る側の経験に理解を委ねる特性をもつ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、資質・能力で一貫した幼児教育と小学校教育の実践から、子どもの育ちの履歴を資質・能力ベースのカリキュラムとして立ち上げたカリキュラムデザインの提案である。特に「見えない教育」と呼ばれる保育の意図や教師の願いが視覚的に読み取れるよう、「写真」を媒体としたカリキュラムデザインに挑戦している。

本研究の成果としてのカリキュラムは一事例に過ぎないが、「写真」という媒体を用いることによって実践者自身の専門性が高まることや、「写真」という媒体の限界が明らかになったことは、今後の保育者の専門性向上に資する研修や保育者養成の在り方について重要な示唆を得るものと考ええる。

研究分野：幼児教育・保育学

キーワード：カリキュラムデザイン 資質・能力 写真

1. 研究の目的

幼児教育現場において、新幼稚園教育要領に示されている「新しい時代に求められる資質・能力」の育成、「小学校教育との円滑な接続」の重要性は認知されているものの、実際には資質・能力ベースで円滑な幼小接続を踏まえた教育課程をすでに編成している園は多くない。これには、「資質・能力の育成」とは何か、「円滑な接続」とは何をつなぐことなのか、という具体が現場で理解されにくいことに一因があるように思われる。

本研究では、幼小一貫した実践から「育成したい資質・能力」を描き出す3歳～5歳の「育ちの履歴カリキュラム」を編成するにあたり、特に環境を通して行う幼児教育の特性をふまえ、環境構成や素材選択を写真や絵を用いてデザインすることにより、教師の意図や願いが視覚的に読み取れるよう「育ちの履歴カリキュラム」デザイン開発を行うことを目的とする。これによって、本来見えない教師の意図や願い、子どもの気づきや学びをわかりやすく表現できるようになり、活動中心のカリキュラムから「育成したい資質・能力」を表現するカリキュラムへの理解が進むと考えられる。

方法として、中期的スパンで保育実践を振り返る中で、これまで無自覚で明示化してこなかった「育成したい資質・能力」の育ちが現れている子どもの姿や育ちを支えた環境構成および教師の援助等を、研究協力者との対話により言語化し、写真を用いてデザインする。

2. 研究成果

(1) 言語化しカリキュラムとしてマッピングをした資質・能力に近い子どもの姿を表現した記録写真を選ぶ-資質・能力を視点に実践を振り返る

実践写真を撮影する際には「記録」の意味合いが強く、資質・能力を意識していない。本研究により、実践写真の中に資質・能力を再発見することになり、実践でより資質・能力を意識するきっかけとなった。

(2) 言語化しマッピングした資質・能力と同位置に写真を配置する

-写真を資質・能力でマッピングし、共通する子どもの学びや育ちを確認する

複数枚の実践写真を配置することで、その共通点として子どもの育ちや学びが視覚情報だけで見出せるのか検討した。その結果、複数枚の写真が提示されることで、見る側は教育内容にまつわる情報に捉われてしまうことが明らかになった。また、本来長期的スパンで捉えている育ちや学びを、一瞬で切り取った写真で他者と共有可能なのか、課題が残った。

(3) 自分が考えている資質・能力がカリキュラム及び実践写真から「見える」のか、対話をする

-一枚の実践写真を基にした対話により、他者とのズレを自覚する

実践写真を基にして資質・能力や教師の意図が読み取れない場合、自分の見方を言語化し、子どもの姿やエピソードから子どもの学びや育ちを具体的にすることにより、自らの保育観やまなごしの癖を自覚することにつながった。視覚情報の多い写真では、見る側に理解を任せることになるので、明確な意図がある場合は、見方を誘導する工夫が必要となることが明らかになった。

(4) 経験知により実践写真から想起されやすい資質・能力があることを理解する

保育実践には、園文化が異なっても同様の教育内容が見られることがある。ここでは、本来個別の子どもの育ちや学びが教育内容で一括りにされ一般化されて語られることがある。これは、教師の経験知により似通った遊びを自分の経験を通して理解していることによる。つまり、表現したい資質・能力によって開かれた写真を用いるか否かを意識する必要があることを理解した。

(5) 実践写真でカリキュラムをデザインする際の「写真」のもつ意味を考察する

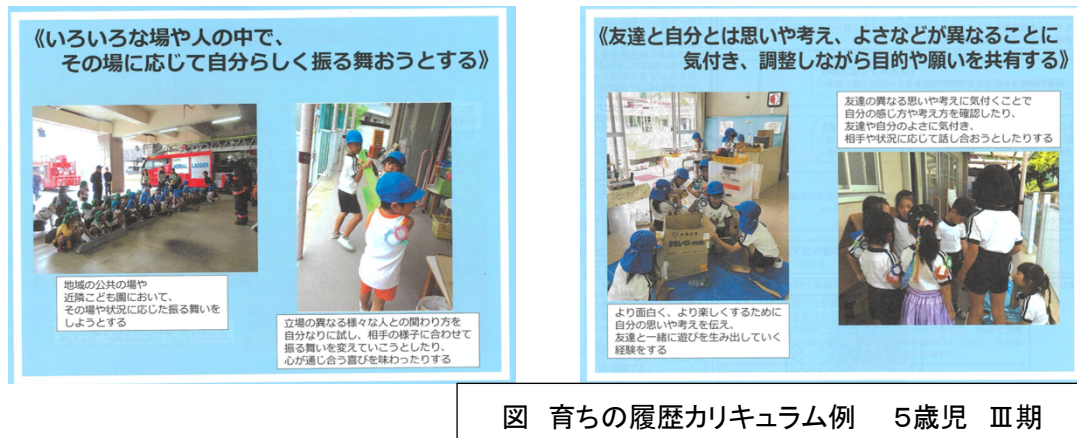
「写真」では撮影前の思考を表現するのは難しく、写真を公開した時から見る側の経験に理解を委ねる特性をもつことが明らかになった。そこで、写真には言語化した資質・能力を添えるデザインに変更した。

(6) 課題

「写真」という媒体は、保育実践を言語化した文章よりも情報量が多く、一見保育が可視化されたような錯覚に陥るのだが、実際には撮影する側・読み取る側の教育観や意図、経験知により解釈がかなり異なり、結果的にカリキュラムへの共通理解を阻むという課題を残した。

一方で、今ここで生きている子どもと私たちの協働する保育実践を切り取る際、複雑で曖昧な保育実践を「写真」という媒体で切り取る行為とその後の対話によるリフレクションによって、自身の眼差しを言語化し、意図を言語化することが保育者としての専門性を高める可能性を見出した。

The image displays two pages from a research report. The left page is a curriculum map for 5-year-olds, titled '5歳児 Ⅲ期 (8月4週～10月3週)'. It features a grid with columns for weeks (8月4週, 9月1週, 9月2週, 9月3週) and rows for different activities. The activities listed include 'いろいろな運動に進んで取り組み、戸外で元気に遊ぶ', '同じグループやチームの友達と力を合わせて仲良く遊ぶ', '自分活動に気持ちに向けていくプロセスが少しずつ定まらねようとしてくる', '切り替わりがつかぬようになってくる。ONとOFFを繰り返す。一日の活動の枠組みが見える。', '切り替わっている状態について常にフィードバックをする。で「目標」を自動的に見られるように援助している。記憶力の両手から翌日の「おしらせ」を手書きできるようにすることで子どもなりに心構えをつくれるようになる。', '一つ一つの活動について必然性がわかるように環境を用意することで、その結果、自分で活動を立ち上げていくようになる。', '関わって来た反応が次の自分の振る舞いを決めるフィードバックになる。パターンだけでなく相手や状況によって振る舞いを変える必要の場まで気づいていく。メタ認知の両手によって自分の立ち位置が感じられ、感じられることでやがてないことがわかる。自分の力量が自覚できるようになる。できないからならぬのでなく、積極的に振る舞うことも重要なスキルとなる。', 'この遊びをする中で、その設定においてどう振る舞うのがそれらしいのか、振る舞いや場の設定を試みている。教師は経験したことのない自分の立ち振る舞いを疑似体験している。', 'テレビ番組をつくる。', '公共の場における振る舞いを意識してコントロールしようとする。メタ認知の両手から自分の動きを客観的に捉え、コントロールする。', '道場での歩き方や大勢の人が集まる場での振る舞いを意識する。', '活動への心構えをする。', '一日の生活の流れややるべきことがある。', '最初の活動について、自分なりに見通しをもって始める。', 'これまでの経験から、活動の枠組みについて、自分自身を振り返る。', '活動の枠組みに合わせて、自分の気持ちも切り替え、向かおうとする。', '友達と自分とは思いや考え、よさなどが異なることに', '友達と様々な出来事や共有の中で、友達の異なる思いや考え、友達や自分のよさや特徴に気づき、それに応じた関わりやしなご、より面白く、より楽しくするために、新しい思いや考えを生み出す。', '自分思いや考えを伝え相手や状況に応じてわかるように話し合ったり、友達と一緒に活動を生み出していくことを経験し、その充実感を味わう。', 'いろいろな場や人の中で、その場に応じて自分から', '活動の中で、自分にとっての考えや、できないことは実現できる。立場の異なる様々な人との関わり方を自分なりに試し、相手の様子に、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動しようとする。', '自分のめあてをもつことで困難なことがあってもあきらめない', '体を動かす様々な活動にめあてをもって立ち向かう。困難にまみれても気持ちを目標をもって頑張ろうとすることで、活動意欲を高め、自らを動かした。', '運動用具に合わせた身体動作や、', '順序立てて考える', '多様な物との関わりの中で、物の性質やしくみに興味を持ち、自分これまでの経験や振り返り、状況や相手の考えなどを見えない', '身近な食べ物から栽培や自然の変化への関心を高める', '身近な食べ物から自然の不思議さを感じ、植物を栽培し観察したり飼育・栽培している動物に関わる中で、身近な動物への関心を高める', '文字による表現・もの見方', 'なまよしほらほ(5歳・18・2年次年齢活動)', '遊びや生活の中で、必要感に基づき、教員・小学生と目的を共有して活動することで、', '日本の伝統文化の豊かさを味わう', '敬老の日、お月見、運動会 など', '主な行事', '登壇日 始業式 身体測定 避難訓練 誕生会 石塚福祉センター訪問 運動会 近隣ふもとの交流 附属小学校体育大会', '自分の力量がわかることで少し先の自分のめあてももち、めあてがあることで継続して取り組む。そこで充実感を味わうとともに、さらなるめあてを見つけて、めあてを達成する喜びを味わう。', '意欲をかきたてる環境や援助によって取り組みを促している。', '活動の目的をイメージとして捉え、気持ちに向けて自分から取り組もうとする。一人ではできないことも、友達と目的や願いを共有してやりとりしながら活動を生み出していくことを楽しむようになる。', '自分の目標に向けて、困難があってもあきらめずに取り組み、乗り越えようとする。', '小学生との活動の中で、小学生の自覚的な学びを体験し、自分なりに楽しむようになる。', 'イメージして行動したり、自分なりの考えをもったりする。', '気持ち、調整しながら目的や願いを共有する', '関心とともに、自分の感じ方や考え方を確認したりする。', '友だちと共に活動や遊びを進める。', '喜びや悔いを感じる。', 'たり、話し合ったりする。', '味わう。', '語る機会や受容', '多様な物との関わりの中で、自分の感じ方や考え方を確認したりする。合わせて振る舞いを変えていこうとしたり、心が通じ合う喜びを味わったりする。', '地域の公共の場や近隣ふもとの間において、その場や状況に応じて振る舞いしようとする。', '切り替えて自分なりに乗り越えようとする。', '動きをコントロールをしたりする。', '目と手足の協働的運動に繰り返し取り組む。', 'なりに論理的に考えを組み立てて試行錯誤する。', 'ことについても予測し、自分なりの考えをまとめようとする。', '楽しんだりして関心を高める。', '高め、大切にすることを。', '中で実践してきたことを表現する中で、文字の役割に気づく。', '楽しんだりして活用する。', '活動のめあてのもち方や取り組み方、振り返り方などを知り、学び文化を経験する。', 'なまよしほらほ(5歳・18・2年次年齢活動)', '小学校の学習の進め方の型を知ることで、自分の伝えたいことの伝え方がわかるようになってくる。', 'めあてをもつことで、その思いを言葉で伝えたり、かどのようなものがあふれたりする。', 'これまでの経験から、友達と一緒にすることの楽しさや達成感を感じる。自分達でどう実現していくのかを繰り返していきながら進める。', '多岐決ではなく、どう新たな考えを生み出していかを繰り返していきながら進める。', '遊びや活動をより面白くするために自分には何ができるのか、自分で考える。', '「自分事」にしていくことで、他者の考えの面白さにも気づいていく。これが他者のよさや特徴の発見や他者理解の深まりにつながる。', 'それぞれしたいこととを実現していくことで思いを視野に入れた遊びの「流れ」を作っていく。', '遊びの楽しさや面白さを深めることさらに面白くなるのかを改めて考える。これが友達との共通のめあてになる。教師が作った、与えたりすることで、めあてが生まれるのではない。', '何を深めることで遊びや活動が楽しめるかを教師が問いかけ、子どもの考えをつなぎ、自分で進めたい経験とのかき取りを繰り返す。', '物に命を吹き込んで、どうすればよい自分なりに考えていく。', '一つ一つの出来事を振り返って、どうするかを考えるようになる。', '知識が優先されるのではなく、経験から知識へと変換していく。', '喜びや、満足をする。', '死んでしまうような事象に向き合うことが出来る環境を整えていく。'



3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

- ① 奈良女子大学幼年教育研究会 (松田登紀、柳沢卓、飯島貴子、柿元みはる、辻岡美希、角田三友紀、鎌内菜穂、越智裕子、福西まゆみ)、教育課程、査読無、32 集-I、2020、1-167 DOI:なし
- ② 奈良女子大学幼年教育研究会 (松田登紀、柳沢卓、飯島貴子、柿元みはる、辻岡美希、角田三友紀、鎌内菜穂、越智裕子、福西まゆみ)、指導計画、査読無、32 集-II、2020、1-154 DOI:なし
- ③ 松田登紀、「子どもスタートの教育」におけるカリキュラム・デザイン、査読無、32 集-I、2020、4-18 DOI:なし
- ④ 松田登紀、「子どもスタートの教育」における評価、査読無、32 集-II、2020、133-142 DOI:なし
- ⑤ 松田登紀、実践知から立ち上げる資質・能力ベースのカリキュラム開発プロセス-「育ちの履歴カリキュラム」を事例として-、教育システム研究、査読無、15 号、2020、印刷中

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 松田登紀、幼小一貫した資質・能力を育成する「育ちの履歴カリキュラム」に関わる研究、日本保育学会、2020 年 5 月 16 日、予定地は奈良教育大学 (奈良県奈良市) であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参集せず
- ② 松田登紀、「育ちの履歴」から編成するカリキュラム-幼小一貫した資質・能力を育成する-、奈良女子大学附属幼稚園公開保育研究会、2020 年 2 月 8 日、奈良女子大学附属幼稚園 (奈良県奈良市)
- ③ 松田登紀、幼稚園教育における資質・能力を育成するカリキュラム・デザインの現状と課題、日本乳幼児教育学会、2019 年 12 月 8 日、東北文教大学短期大学部 (山形県山形市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕(計 0 件)

〔その他〕(計 0 件)

4. 研究組織

研究協力者

研究協力者氏名：柳沢 卓、飯島 貴子、柿元 みはる、辻岡 美希、角田 三友紀、鎌内 菜穂、越智 裕子、福西 まゆみ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。